

巨石移動実

験

その2

Project 2

会報9号で巨石移動の方法について実験と机上計算によりその可能性を述べた。その後、諸般の事情により実験がストップしていたが、奥西前山添いわくら文化研究会会長より提案があり、既に移動実験のための岩とスノコを作るための丸太を準備してあること、それを無駄にするのは惜しいという事であった。

2007年6月14日いわくら文化研究会の有志5名が集まり予備実験を行った。

岩は、1.4m×0.9m×0.45mの扁平な形状をしている。重さはおおよそ1.6トンと思われる。

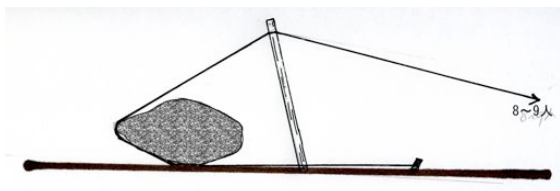
【実験1】

扁平な岩をスノコの上の乗せやすくするため起こすことにした。岩に回転運動を起こさせる為、下の写真のようなA型に丸太を組んだものを用意した。

当初4人で引つ張って見たが動く様子が見られなかった。そのため近くにいた人に応援を頼み9人で引つ張ってみた。その結果は岩を軽々と90度興すことが出来た。

1人あたりの引つ張る力は40kgであり9人で動かした事からその引つ張る力の総量は360kgである。1.6トンの岩を90度回転させるために約1/4の力からで動かしたことになる。

なお、途中の人数での実験をしていないので確たることは言えないが、おそらく7人程度の人数で動かせたのではないかと考えている。



A型の丸太により上方に曳き
回転運動に変える



実験1 寝ている岩を起こす

【実験2】

丸太でスノコを作る。ロープで2箇所を編むような形をつくった。

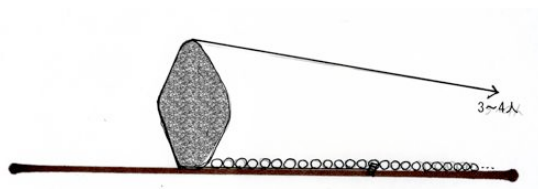
あとになってわかったが、編むのではなく一本ずつロープで括りつける形にする方が良かった。岩の力で丸太が簡単に移動してしまいうため岩を包み込む状態にすることが難しいことがわかった。



実験2 スノコを丸太で作る

【実験3】
 実験1で90度起こした岩をさらに90度回転してスノコの上に乗せる。

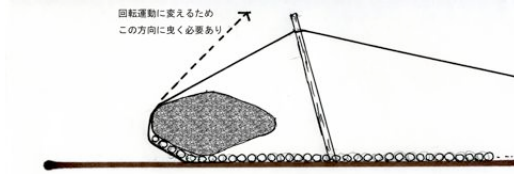
1段階めは岩の接地面が小さく、回転運動が起こししやすい状態であったため4人で簡単に回転した。



第1段階 接地面が小さく、簡単に回転運動に変わり
 少人数で動かせた運

さらに90度回転しようとしたが、ここで誤算が起こった。岩の形状から回転運動に出来ず、回転運動に変えるためにはA型状の丸太の高さを高くし、斜め上方から

引き上げるような力をかける必要があった。



第2段階 A型丸太の高さが低く回転運動に変えるほど上方に曳く事が出来なかった

【実験4】

何とか岩にスノコを巻きつけることが出来た。
 今回時間がなかったため写真のような状態にとどまった。



実験4 スノコを巻いた状態

【次回実験】
 次回、スノコを結び付けているロープを締めなおし、木っ端を打ち込む事により円柱状に整形する実験を行う。

